

I 農 林 技 術 研 究 所

茶業研究センター

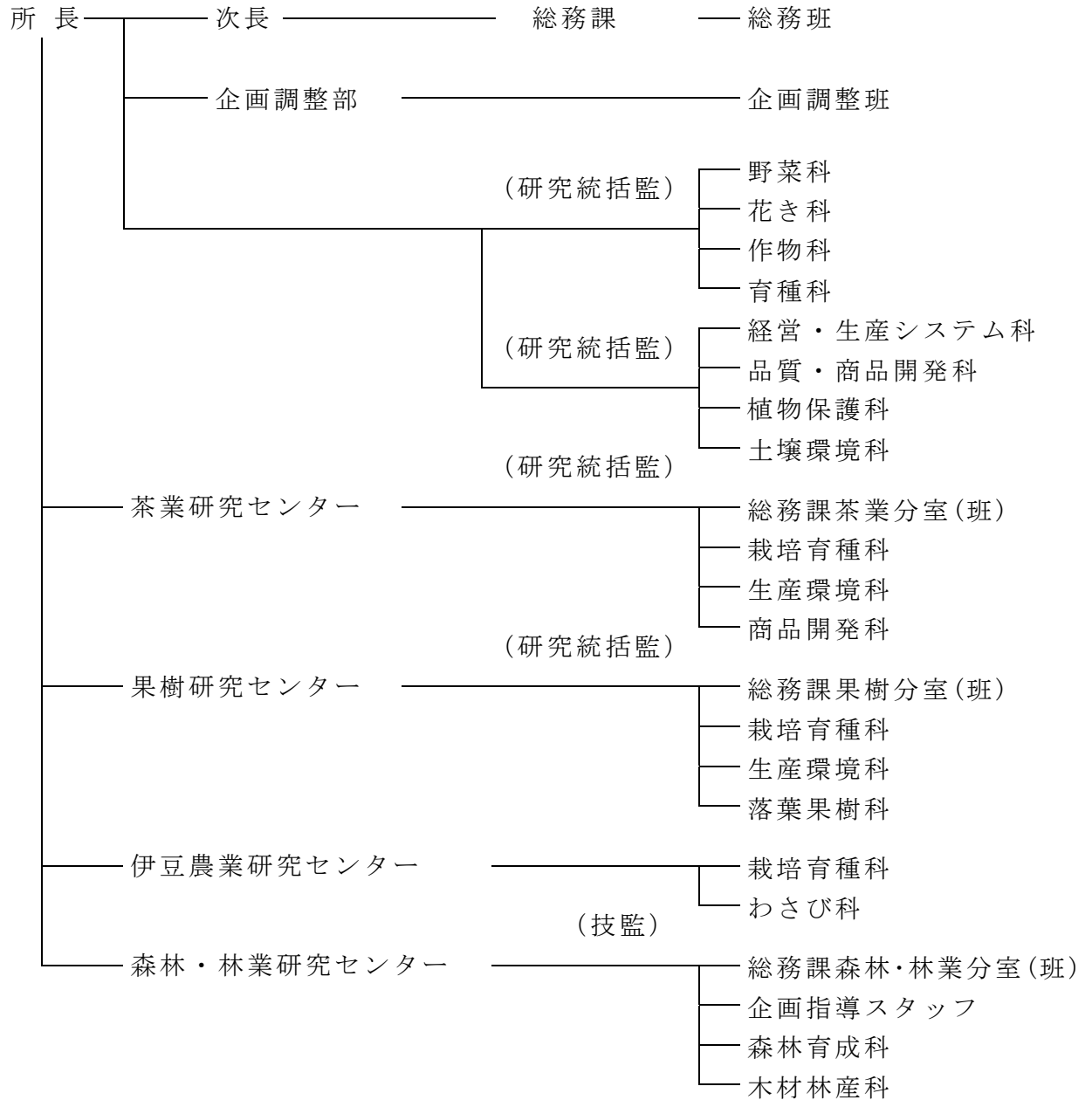
果樹研究センター

伊豆農業研究センター

森林・林業研究センター

I 農林技術研究所

1 試験研究組織



2 試験研究職員構成

区 分		事務 職員	技術職員		技能労務 職員	計
			研 究	行 政		
所長				1		1
次長		1				1
総務課	総務班	5 ①				5 ①
	研究統括監		2			2
企画調整部	部長		1			1
	専門監			1		1
	企画調整班	④		2	9 [2] ⑰	11 [2] ⑳
	野菜科		5			5
	花き科		4			4
	作物科		5			5
	育種科		4			4
	経営・生産システム科		4			4
	品質・商品開発科		4			4
	植物保護科		6			6
	土壌環境科		4			4
(本所)	計	6 ⑤	39	4	9 [2] ⑰	58 [2] ㉒
茶業研究センター	センター長			1		1
	研究統括監		1			1
	総務課茶業分室	3 ①			2 [2] ⑤	5 [2] ⑥
	栽培育種科		6			6
	生産環境科		5	1 [1]		6 [1]
	商品開発科		4	1 [1]		5 [1]
	計	3 ①	16	3 [2]	2 [2] ⑤	24 [4] ⑥
果樹研究センター	センター長		1			1
	研究統括監		1			1
	総務課果樹分室	4			⑥	4 ⑥
	栽培育種科		6			6
	生産環境科		5			5
	落葉果樹科	①	4		1 [1] ①	5 [1] ②
	計	4 ①	17	0	1 [1] ⑦	22 [1] ⑧
伊豆農業研究センター	センター長		1			1
	栽培育種科	①	6		2 [1] ③	8 [1] ④
	わさび科	①	3		①	3 ②
	計	②	10		2 [1] ④	12 [1] ⑥
森林・林業研究センター	センター長			1		1
	技監			1		1
	総務課森林・林業分室	3			1 ②	4 ②
	企画指導スタッフ			1		1
	森林育成科		9			9
	木材林産科		5			5
	計	3	14	3	1 ②	21 ②
合 計		16 ⑨	96	10 [2]	15 [6] ㉓	137 [8] ㉔

(注) □ は再任用職員で内数、○は非常勤嘱託職員で外数。病虫害防除所は除く。

3 試験研究方針（平成26年度～平成29年度）

農林業を巡る環境

●社会経済情勢

- ・国際化の進展と新興国の経済発展
- ・少子高齢化による人口減少社会の進展
- ・ライフスタイルと価値観の多様化

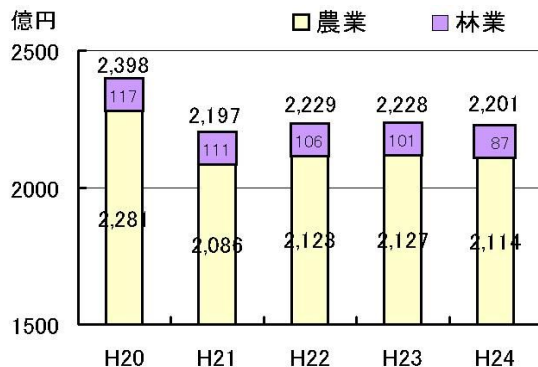
●流通・消費環境

- ・販売・流通形態の変化
- ・食の安全・安心への関心の高まり
- ・中食・外食など食の外部化の進展
- ・6次産業化による新商品開発の実施

●生産構造

- ・農業従事者の高齢化と担い手の減少
- ・耕作放棄地や荒廃森林の増加
- ・資材価格の上昇による農林家経営の悪化
- ・ICT、ロボット化の進展
- *農業生産に占めるビジネス経営体シェア
24.8% (H23)
- *森林組合等での施業・生産の集団化進展

<農林業産出額の推移（億円）>



●環境保全・省資源

- ・地球温暖化の進行
- ・茶草場の世界農業遺産登録
- ・再生可能な資源・エネルギー活用の必要性

農林業の振興方向

経済産業ビジョン（農業・農村編）

基本方向Ⅰ 「場の力」を活用した地域経済の活性化

- 1 人々を惹きつける都づくり
 - ・「食の都」、「茶の都」、「花の都」づくり
 - ・ふじのくにブランドの推進
- 2 ふじのくにブランドを活かした戦略的な海外展開
 - ・農林水産物の輸出促進
 - ・輸出に向けた産地の取組支援
- 3 6次産業化による高付加価値化の推進
 - ・支援体制の強化
 - ・事業者の取組への支援

基本方向Ⅱ 豊かさを支える農業の強化

- 1 攻めの農業を担うチャレンジ精神あふれる経営体の育成
 - ・ビジネス経営体の育成
 - ・企業参入の推進 等
- 2 優良農地の確保と集積等による農地の徹底活用
 - ・水田の有効利用 等
- 3 技術革新による生産力の飛躍的拡大
 - ・高品質化・省力化・低コスト化による生産性向上
 - ・新技術の開発と普及
 - ・優良品種の開発導入 等

基本方向Ⅲ 住んでよし訪れてよし豊かな農山村づくり

- 1 集落機能の維持・向上による農山村の再生
 - ・地域資源の保全と活用 等
- 2 快適な農山村の暮らしの実現
 - ・農山村における安全・安心の確保 等
- 3 都市農村交流の促進
 - ・農業の持つ多様な価値の活用 等

経済産業ビジョン（林業・木材産業編）

基本方向 豊かさを支える林業の強化

- 1 県産材の需要と供給の一体的な創造
 - ・県産材の需要拡大
 - ・県産材の安定供給体制の確立
 - ・ビジネス林業の展開

試験研究展開の基本方向

試験研究の推進方向

I 「場の力」を活用した地域経済の活性化

- 地域特産の農林産物の発掘・改良、これを素材とした商品や加工技術の開発
- 効果的な商品プロモーションを可能にする栽培技術の開発・高度化
- 機能性成分の高い農林産物の開発、加工品及び加工技術の開発
- 新たな需要を創造する加工適性に優れた農林産物の開発、加工技術の開発
- 耐久性や機能性に優れた県産木材・木質材料の開発

II 豊かさを支える農林業の強化

- 高収益を生む本県独自の高品質な品種や地球温暖化に適応した品種の育成
- 低コスト、省力技術を体系化した農林産物の高効率栽培管理技術の開発
- 地球温暖化に適応した栽培管理技術の開発
- 高品質な商品の流通を実現する生産・加工・流通段階での品質管理技術の開発
- 二毛作、輪作、耕畜連携等による農地の高度利用システムの開発
- 集積された農地を利用した収益性の高い農業経営モデルの開発
- 森林施業の集約化や路網整備等による効率的な林業経営モデルの開発

III 住んでよし訪れてよし豊かな農山村づくり

- 生態系の保全とバランスを取った病害虫防除技術の開発
- 省資源・省エネルギーで廃棄物を最小限に抑えた新時代のものづくり技術の開発
- エネルギーの地産地消に向けた再生可能エネルギーの利用技術の開発
- 農山村資源の公益的機能を有効活用した生産基盤の維持管理システムの開発
- 快適な森林・河川・内水面・海域等を形成する環境管理技術の開発
- 美しい景観形成のための花き、草木等の活用・管理技術の開発
- 野生鳥獣被害防止技術、適正な生態系を維持するための動植物の管理技術の開発

平成27年度 農林技術研究所（本所） 試験研究課題一覧

(平成27年4月1日現在)

《試験研究の基本方向》

《試験研究の推進方向》

《 研究 課 題 》

「場の力」を活用した地域経済の活性化
[2課題]

地域特産の農林産物の発掘・改良、これを素材とした商品や加工技術の開発
[2課題]

豊かさを支える農林業の強化
[13課題]

高収益を生む本県独自の高品質な品種や地球温暖化に適応した品種の育成
[5課題]

低コスト、省力技術を体系化した農林産物の高効率栽培管理技術の開発
[4課題]

地球温暖化に適応した栽培管理技術の開発
[1課題]

高品質な商品の流通を実現する生産・加工・流通段階での品質管理技術の開発
[2課題]

集積された農地を利用した収益性の高い農業経営モデルの開発
[1課題]

住んでよし訪れてよし豊かな農山村づくり
[8課題]

生態系の保全とバランスを取った病害虫防除技術の開発
[5課題]

省資源・省エネルギーで廃棄物を最小限に抑えた新時代のものづくり技術の開発
[2課題]

農山村資源の公益的機能を有効活用した生産基盤の維持管理システムの開発
[1課題]

- 1 (新)[成]食の都しずおかの微生物を用いた新しい発酵食品ビジネスの創出(27-29)
- 2 本県特産野菜を活用した高齢者向け食品素材に関する研究(25-27)
- 3 水稻の新品種育成(23-27)
- 4 イチゴ新品種の育成(23-27)
- 5 香りを重視した温室メロンを育種するための選抜法の開発と育種素材の評価(24-28)
- 6 キクの新品種育成(24-28)
- 7 水稻・畑作物奨励品種決定試験(23-27)
- 8 (新)イチゴ‘きらび香’の安定生産技術の確立(27-29) 〈委〉
- 9 (新)[成]高品質な大規模施設野菜生産を可能にする成育情報活用型スマートアグリシステムの開発(27-29)
- 10 [成]タマネギ及びビレタス栽培の省力機械化システム実用化(26-28)
- 11 農作物品種及び生産資材の比較、検定、調査(27) 〈受〉
- 12 気象変動に対応した温室のアシスト制御技術の開発(23-27) 〈委〉〈共〉
- 13 (新)プレミアム完熟温室メロンの安定生産技術の確立(27-29)
- 14 [成]みかんの貯蔵性向上と切り花の新商品開発による静岡ブランドの強化(25-27) 〈共〉
- 15 静岡県農業の成長戦略を支える担い手育成に関する研究(25-27)
- 16 雑草・害虫を抑制する水田畦畔管理技術の開発〈共〉(25-27) 〈委〉〈共〉
- 17 (新)蒸気処理防除機の活用による水田の病害虫・雑草等管理技術の確立(27-29) 〈共〉
- 18 施設園芸作物における進化型IPMを構成する要素技術の開発(26-28) 〈委〉〈共〉〈受〉
- 19 IPM(総合的病害虫管理)によるネギ属作物の安定生産技術の開発(24-27) 〈委〉〈共〉
- 20 新しい農薬の適応選抜(27) 〈受〉
- 21 (新)牛ふん堆肥ベースの新肥料および土壌中蓄積窒素の活用による効率的施肥管理技術の開発(27-31) 〈委〉〈共〉
- 22 [成]分散型エネルギー社会に貢献する小型メタン発酵プラントの開発(26-28)
- 23 県内主要農耕地の土壌環境及び土壌炭素モニタリング調査(26-30) 〈委〉

(新):新規課題、[成]:新成長戦略研究、〈委〉:国庫委託、〈助〉:国庫補助、〈交〉:国庫交付金、〈受〉:受託事業、〈共〉:共同研究

平成27年度 農林技術研究所（茶業研究センター） 試験研究課題一覧

(平成27年4月1日現在)

《試験研究の基本方向》 《試験研究の推進方向》 《 研 究 課 題 》

「場の力」を活用した地域経済の活性化
[1 課題]

新たな需要を創造する加工適性に優れた農林水産物の開発、加工技術の開発
[1 課題]

1 [成] ‘茶の都しずおか’ を担う「第三の煎茶」の開発(26-28) 〈共〉

豊かさを支える農林業の強化
[9 課題]

高収益を生む本県独自の高品質な品種や地球温暖化に適応した品種の育成
[4 課題]

2 新品種の育成(23-27) 〈委〉〈共〉
3 品種の選定(23-27)
4 チャ育成地育成系統の地域評価試験(26-30) 〈委〉〈共〉
5 (新) 品種茶利用促進のための特性解明(27-31)

低コスト、省力技術を体系化した農林産物の高効率栽培管理技術の開発
[3 課題]

6 夏季被覆による干ばつ被害防止技術の確立(26-28)
7 国内需要向け茶生産における高収益生産体系の実証研究(26-27) 〈委〉〈共〉
8 根圏を制御する茶液肥管理技術の確立(26-28)

高品質な商品の流通を実現する生産・加工・流通段階での品質管理技術の開発
[2 課題]

9 (新) 被覆茶需要に応える簡易な樹体診断法と効率的被覆作業による高品位安定生産体系の確立(27-29) 〈委〉
10 発酵茶の品質に関する実態調査及び発酵工程管理支援システムの構築(26-28)

住んでよし訪れてよし豊かな農山村づくり
[4 課題]

生態系の保全とバランスを取った病害虫防除技術の開発
[4 課題]

11 ハマキガ類の殺虫剤抵抗性機構の解明と抵抗性診断技術の開発(26-30) 〈委〉〈交〉〈共〉
12 チャ赤焼病の生態解明と防除法の開発(25-27) 〈交〉
13 新農薬実用化試験(27) 〈受〉
14 新農薬・新肥料及び新資材等の効果確認及び使用法の検討(27) 〈受〉

(新) : 新規課題、[成] : 新成長戦略研究、〈委〉 : 国庫委託、〈助〉 : 国庫補助、〈交〉 : 国庫交付金、〈受〉 : 受託事業、〈共〉 : 共同研究

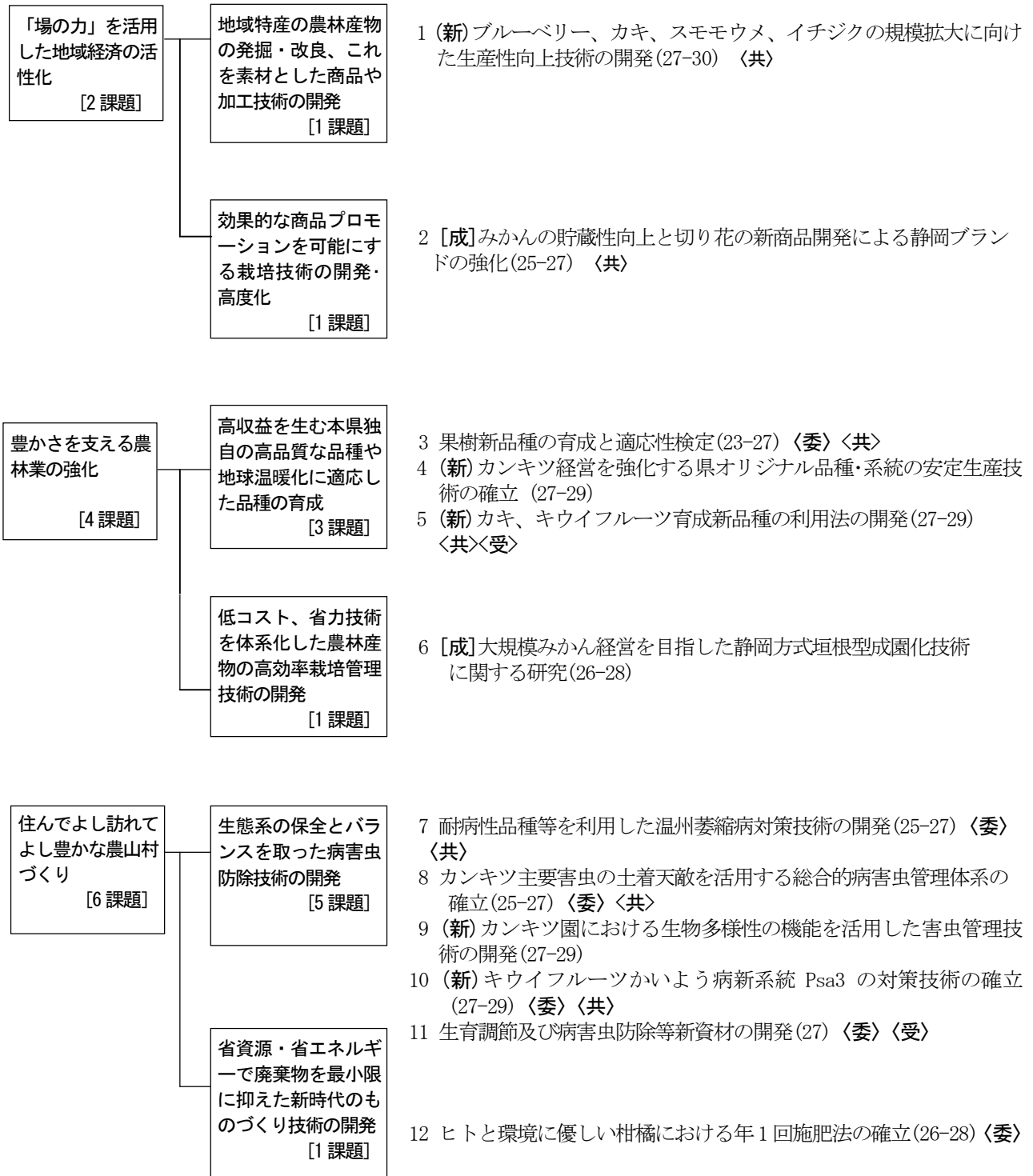
平成27年度 農林技術研究所（果樹研究センター）試験研究課題一覧

(平成27年4月1日現在)

《試験研究の基本方向》

《試験研究の推進方向》

《 研究 課 題 》



(新)：新規課題、[成]：新成長戦略研究、〈委〉：国庫委託、〈補〉：国庫補助、〈交〉：国庫交付金、〈受〉：受託事業、〈共〉：共同研究

平成27年度 農林技術研究所（伊豆農業研究センター） 試験研究課題一覧

（平成27年4月1日現在）

＜＜試験研究の基本方向＞＞

＜＜試験研究の推進方向＞＞

＜＜研究課題＞＞

「場の力」を活用した地域経済の活性化
[4 課題]

地域特産の農林産物の発掘・改良、これを素材とした商品や加工技術の開発
[1 課題]

ふじのくにブランドとして高収益を生む本県独自の高品質な品種や地球温暖化に適応した品種の育成
[3 課題]

豊かさを支える農林業の強化
[2 課題]

地球温暖化に適応した栽培管理技術の開発
[2 課題]

住んでよし訪れてよし豊かな農山村づくり
[1 課題]

生態系の保全とバランスを取った病害虫防除技術の開発
[1 課題]

- 1 カワヅザクラ等新規伊豆特産作物の生産技術の確立(26-28)
- 2 カーネーション新品種の育成と特性調査(23-27) 〈委〉
- 3 マーガレット等伊豆特産花きの育成と生育特性の解明(23-27) 〈委〉〈受〉
- 4 ワサビ種子繁殖系統の育成選抜(23-27)
- 5 伊豆地域の立地条件に適した果樹品種の育成・選抜(23-27)
- 6 (新) ヒュウガナツ系新品種の導入と生産安定技術の体系化(27～29)
- 7 農作物品種及び生産資材の比較、検定、調査(27)

(新)：新規課題、[成]：新成長戦略研究、〈委〉：国庫委託、〈補〉：国庫補助、〈交〉：国庫交付金、〈受〉：受託事業

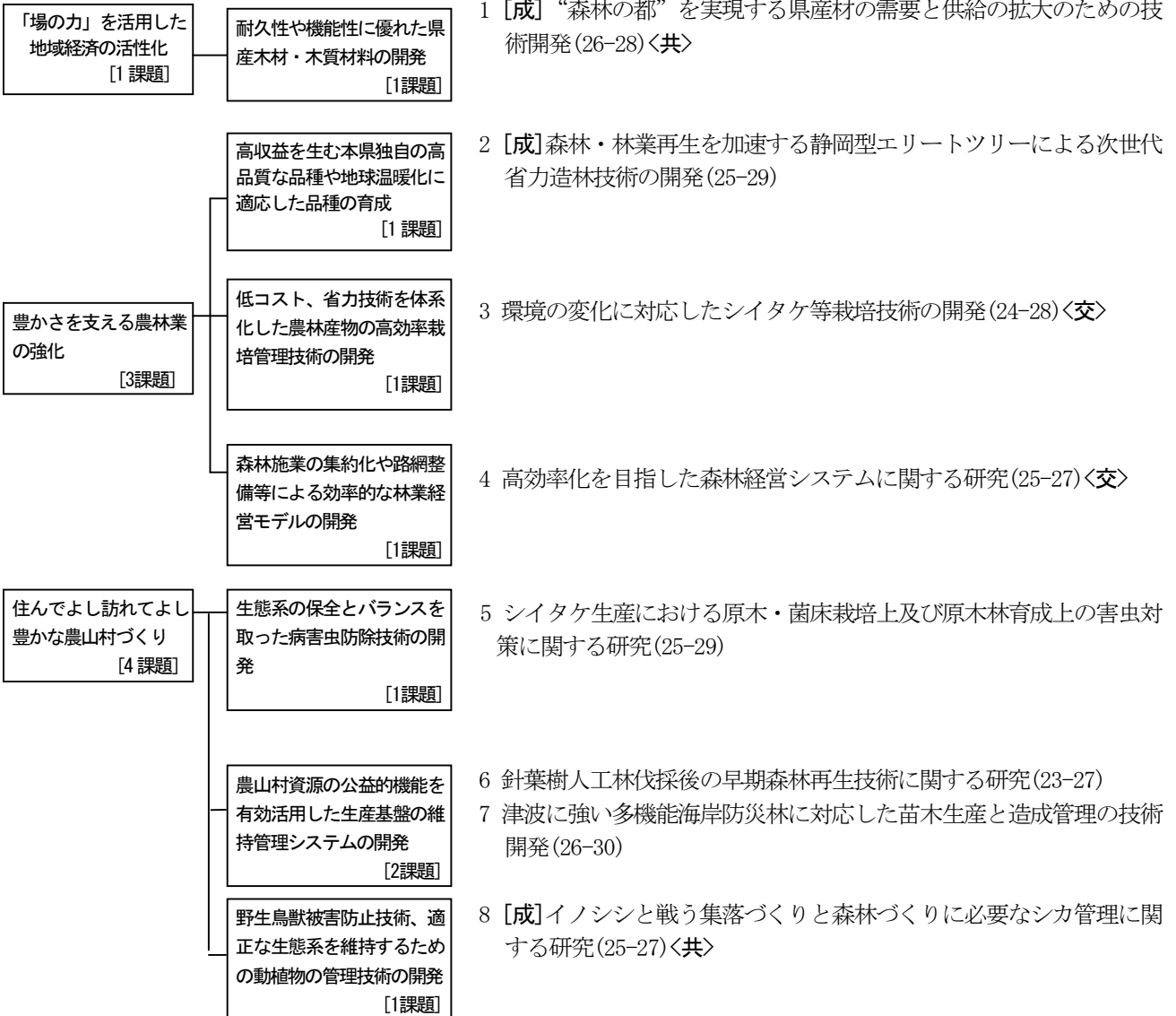
平成27年度 農林技術研究所（森林・林業研究センター） 試験研究課題一覧

(平成27年4月1日現在)

《試験研究展開の基本方向》

《試験研究の推進方向》

《研究課題》



(新)：新規課題、[成]：新成長戦略研究、〈委〉：国庫委託
 〈交〉：国庫交付金、〈受〉：受託事業、〈共〉：共同研究

4 平成27年度試験研究課題数

区 分		研究課題数		細目課題数	
			内新規		内新規
	野菜科	3	2	11	8
	花き科	①	0	②	0
	作物科	4	1	8	2
	育種科	3	0	7	0
	経営・生産システム科	2	0	11	0
	品質・商品開発科	2①	②	4②	2②
	植物保護科	3	0	13	1
	土壌環境科	3①	1	7②	2
(本所)	計	20③	4②	61⑥	15②
茶業研究センター	栽培育種科	7	2	16	6
	生産環境科	5	0	13	0
	商品開発科	2	0	6	0
	計	14	2	35	6
果樹研究センター	栽培育種科	4	1	9	3
	生産環境科	6	2	12	4
	落葉果樹科	2	2	6	6
	計	12	5	27	13
伊豆農業研究センター	栽培育種科	6	1	16	3
	わさび科	1	0	3	0
	計	7	1	19	3
森林・林業研究センター	森林育成科	5	0	11	0
	木材林産科	3	0	7	0
	計	8	0	18	0
合 計		61③	14②	160⑥	37②
平成26年度		63②	15①	158④	43②

注) 丸数字は、1つの研究課題を本所及び研究センター共同で実施している場合の連携機関の研究課題数で、外数で記載。

平成27年度試験研究課題編成表 (平成27年4月1日現在)

(1) 本所

農林技術研究所(本所) No.1

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
農業一般 (野菜) (特選野菜)	「場の力」を活用した地域経済の活性化	1 食の都しずおかの微生物を用いた新しい発酵食品ビジネスの創出<新>	(27-29)	本県の有用微生物を様々な産業で有効活用できる仕組みを構築する。	品質・商品開発科 (豊泉友康、神谷径明) 沼工技(主)、 工技研、畜技研、 水技研、環衛研、他 連携	経済産業部	県単 (新成長)
		1-1 「食の都しずおか有用微生物ライブラリー」の構築<新>	27-29	・微生物の特性や利用法を明らかにしたライブラリーを構築するため、農産物等から乳酸菌や酵母を単離する。			
		1-2 消費者ニーズに対応した「食の都しずおか」発の新規発酵食品開発<新>	27-29	・新規発酵食品の味や香りの特性を明らかにするため、適正な評価ができる検査員(味覚と嗅覚が正常)を選抜する。併せて、発酵食品の香りの分析条件を確立する。			
農業一般 (野菜) (特選野菜)	「場の力」を活用した地域経済の活性化	2 本県特産野菜を活用した高齢者向け食品素材に関する研究	(25-27)	高齢者がおいしく食べられる野菜の加工技術や栄養摂取を補助する食品素材を開発する。	品質・商品開発科 (豊泉友康、神谷径明)	磐田市	県単
		2-1 本県特産野菜を利用した高齢者向け加工素材の開発	25-27	・嚥下・咀嚼機能が低下した高齢者向けに開発した温野菜パックの商品化と並行して、磐田の特産野菜である白ネギやエビイモを用いた製品開発を実施する。			
		2-2 塩分・糖分代替等機能性食品素材の開発	25-27	・栄養成分制限者等向けの素材風味を維持した温野菜パック(市販化済み)に、トマトのダシを入れて、更においしくなるか等明らかにして、素材開発へ繋げる。			
農業一般 (作物) (水 稻)	豊かさを支える農林業の強化	3 水稻の新品種育成	(23-27)	本県の気象条件に適合する良質・良食味品種を育成する。	作物科 (外山祐介、宮田祐二)	中遠農林事務所他	県単
		3-1 極早生品種の育成	23-27	・「なつしずか」より5日程度収穫が早く、高温耐性に優れた良食味品種の育成。			
		3-2 酒造好適米品種の育成	23-27	・「誉富士」並みの酒造適性を持ち、難穂発芽性で収量性に優れた品種の育成。			

<新>:新規課題 <助>:国庫補助 <委>:国庫委託 <交>:国庫交付金 <受>:受託 <共>:共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
農業一般 (野菜) (イチゴ)	豊かさを支える農林業の強化	4 イチゴ新品種の育成	(23-27)	早生大果系で高品質、多収品種の育成により、特色あるイチゴ生産の拡充を図る。	育種科 (河田智明) 野菜科 (井狩徹)	志太榛原農林事務所他	県単
		4-1 イチゴ実生優良系統の選抜	23-27	・実生個体から育成した栄養系の早生優良系統選抜、炭疽病耐病性を含めた特性調査を行う。			
		4-2 イチゴ育成品種系統の地域適応性検定	23-27	・育成品種系統の地域適応性を検討する。			
農業一般 (野菜) (温室メロン)	豊かさを支える農林業の強化	5 香りを重視した温室メロンを育種するための選抜法の開発と育種素材の評価	(24-28)	温室メロンの香りや成熟度に関する果実形質の選抜方法を確立し、育種素材の評価をする。	育種科 (菊池佑弥) 野菜科 (今原淳吾) 品質・商品開発科 (松浦英之)	静岡県温室農業協同組合	県単
		5-1 F1親系統の特性評価	24-28	・香りの評価法を確立し、F1親系統の香り関連形質を評価する。			
		5-2 香り関連形質の遺伝性	27-28	・F1、F2世代における香り関連形質の遺伝性を確認する。			
農業一般 (花き) (キク)	豊かさを支える農林業の強化	6 キクの新品種育成	(24-28)	低温伸長性・開花性を有する輪ギクと耐暑性の強いスプレーギクのオリジナル品種を育成し、本県キク産地の市場性向上と経営安定を図る。	育種科 (寺田吉徳、本間義之) 花き科 (名越勇樹)	JAとぴあ浜松	県単
		6-1 低温期の作型に適応した黄色輪ギクの品種育成	24-28	・交配育種により、低温伸長性を有し到花日数の短い静岡県独自の黄色輪ギク有望品種を育成する。			
		6-2 輪ギクの効率的育種法の開発	24-28	・輪ギクの交配育種を進めるために、遺伝資源の評価を行うとともに稔性の高い管状花の効率的増加方法を開発する。さらに育種技術向上のための幼苗選抜技術を開発する。			
		6-3 高温期の作型に適応したスプレーギクの品種育成	24-28	・交配育種により、夏季の高温栽培に適したスプレーギク有望品種を育成する。			

〈新〉：新規課題 〈助〉：国庫補助 〈委〉：国庫委託 〈交〉：国庫交付金 〈受〉：受託 〈共〉：共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
農業一般 (作物) (水 稲) (畑 作)	豊かさを支える農林業の強化	7 水稲・畑作物奨励品種決定試験	(23-27)	水稲：作業分散や気象災害の回避のため熟期別、用途別に奨励品種を選定する。 小麦：用途別（麺用、パン用）に栽培適性に優れる奨励品種を選定する。	作物科 (井鍋大祐、白鳥孝太郎、外山祐介)	静岡県稲作研究会他	県単
		7-1 水稲奨励品種決定試験	23-27	・極早生・早生熟期の良食味品種。「誉富士」より栽培適性に優れる酒造好適米品種及び糯品種を重点に選定する。			
		7-2 畑作物奨励品種決定試験	23-27	・‘イワイノダイチ’より子実中のタンパク含有率が高く、グルテンの質が改善された栽培しやすい品種と、パン適性に優れる品種を選定する。			
農業一般 (野菜) (イチゴ) (経営)	豊かさを支える農林業の強化	8 イチゴ‘きらび香’の安定生産技術の確立<新><委>	(27-29)	新品種‘きらび香’の円滑な導入普及をすすめるための生産性、品質向上技術の開発と経営モデルの作成、品種保護のための識別技術開発、パッキングセンター効率化のための判別装置の実用化を図る。	野菜科 (井狩徹) 品質商品開発科(佐々木麻衣) 経営生産システム化(大須賀隆司) 育種科(河田智明、菊池佑弥)	J A 静岡経済連、J A 遠州夢咲、J A 静岡市	県単 国庫委託 (攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業)
		8-1 生産性向上技術の開発<新><委>	27-29	・CO2施用等環境制御による生産性向上と土耕における規模拡大のための栽培技術を確立する。			
		8-2 果実品質向上技術の開発<新>	27-29	・低品質果実の発生防止策とCO2施用による食味向上技術を確立する。			
		8-3 パッキングセンターの効率化<新>	27-29	・荷受判別装置の実用性向上と現地実証と併せて導入モデルを作成する。			
		8-4 生産規模別モデルの策定<新>	27-29	・作型別の経営評価により組み合わせモデルを作成しと現地実証する。			
		8-5 品種識別技術の開発<新>	27-29	・‘きらび香’の品種識別マーカーを開発するとともに簡易な品種識別方法を開発する。			

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分	
農業一般 (野菜) (トマト、イチゴ)	豊かさを支える農林業の強化	9 高品質な大規模施設野菜生産を可能にする成育情報活用型スマートアグリシステムの開発<新>	(27-29)	ビジネス経営体や企業参入の促進により本県の特徴である高品質な野菜生産を持続的に発展させるため、新規就農や参入企業等でも高品質野菜の栽培管理を的確に判断できる成育情報活用型スマートアグリシステムを開発する。	野菜科 (今原淳吾、井狩徹、大石直記、可児裕規)	みかん園芸課	県単 (新成長)	
		9-1 環境と植物の成育情報を取得できるセンサおよび無線ネットワークの開発<新>	27-28	・成育情報および環境情報を評価できるマルチセンサ(葉面積程度、日射、温・湿度、窓開度、等)を開発する。	みかん園芸課、 静岡大学情報学部、 情報通信研究機構ほか			
		9-2 センサデータの総合的解析による栽培管理の判断に有効な指標の開発<新>	27-28	・マルチセンサ取得データから養水分管理やCO2施用管理に役立つ要因を抽出・解析し、栽培管理に有効な「養水分吸収量」等を推定・評価するためのアルゴリズムを構築する。				
		9-3 スマートアグリシステムの現地実証試験<新>	28-29	・開発した新たな管理指標を搭載したスマートアグリシステムを現地農業生産法人等に設置し、システムによる栽培管理の有効性を実証する。				
農業一般 (機械、野菜、経営)	豊かさを支える農林業の強化	10 タマネギ及びレタス栽培の省力機械化システム実用化	(26-28)	タマネギ及びレタスにおける大規模経営を可能とする省力機械化システムの開発と実用化技術を確認する。	経営・生産システム科 (山根俊、山崎成浩、中村浩一、大須賀隆司)	J A とびあ 浜松他、 農業振興課、 みかん園芸課	県単 (新成長)	
		(タマネギ)						
		10-1 セルトレイ育苗技術の実証と改良	26-28	・セルトレイ育苗技術の確立と現地実証を行う。	野菜科 (望月達史)			
		10-2 収穫機の実証と改良	26-28	・市販化に向けた試作機の改良と性能評価を行う。	土壌環境科 (渥美和彦)			
		10-3 省力的調製、運搬技術の開発	26-28	・自走式調整機の試作と性能評価を行う。				
		10-4 経営タイプ別機械化システムの提案	26-28	・経営のタイプ別に機械化システム導入効果の試算を行う。	(有)セザムテック、(有)沢田機工、(株)佐々木コーポレーション、(株)カワサキ機工、(株)ニシザワ、東北農研センター、香川農試			
		(レタス)						
		10-5 移植同時植穴施肥技術の実証	27-28	・植穴施肥装置の市販化に向けた現地実証を行う。				
10-6 簡易ハウスを用いた省力安定栽培技術開発	26-28	・簡易ハウスにおける栽培技術の確立と現地実証を行う。						
10-7 収穫機の改良と運搬機の開発	26-28	・4条独立切断機構開発等の開発と現地実証を行う。						
10-8 一斉収穫体系の経営的評価	26-28	・一斉収穫体系の経営的評価を行う。						

<新>:新規課題 <助>:国庫補助 <委>:国庫委託 <交>:国庫交付金 <受>:受託 <共>:共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
農業一般 (作物・野菜・ 花き)	豊かさを支える農林 業の強化	11 農作物品種及び生産資材の比較、検 定、調査<受>	(27)	試験研究機関として日常的、地域的に対応する事項で、単 年度あるいは課題化以前のもので、比較、検定調査が必要と なる試験研究の事項について検討する。	土壌環境科 野菜科 作物科	県肥料協会 等	県単
		11-1 農作物品種の比較、検定<受>	27	・新発表品種、既存品種・系統、新作物等の検討を行う。			
		11-2 肥料等の効果検定、調査<受>	27	・新開発肥料、土壌改良剤等の検定、調査を行う。			
		11-3 資材機械等の性能調査 <受>	27	・被覆材、新型機械、器具の調査を行う。			
農業一般 (野菜・花き)	豊かさを支える農林 業の強化	12 気象変動に対応した温室のアシスト 制御技術の開発<委><共>	(23-27)	気象変動に対応して農芸品生産の安定化及び効率化を図る ため、植物生体情報やITを活用し低投入で高品質多収生産が 可能な温室のアシスト制御技術を開発する。	野菜科 (大石直記、今 原淳吾、可児裕 規) 花き科 (貫井秀樹、名 越勇樹、外岡慎) 育種科 (本間義之、菊 池佑弥) 野茶研、三重農 研、愛知農試、 静岡大学他 農研機構、理化 学研究所、静岡 大学他 中部電力 四国研究セン ター、東京イン キ他	みかん園芸 課	国庫委託 (攻めの農 林水産業の 実現に向け た革新的技 術緊急展開 事業) 国庫委託 (SIP オミ クス利用に よる新世代 栽培技術開 発) 共同研究 国庫委託 (農林水産 業・食品産業 科学技術研 究推進事業)
		12-1 環境・生体情報の統合的診断よる 温室メロンの栽培管理アシストシ ステムの開発	23-27	・温室環境や植物生体情報の可視化、統合化により熟練を要 する温室メロンの栽培管理を再現できるアシストシステム の開発を目指す。			
		12-2 高温期の環境制御等によるトマト 、花き栽培の多収生産技術の開発 <委><共>	23-27	・高温期における成育障害や病害を防ぎ多収化を図るため、 年間を通じた温・湿度環境や給液制御の最適化と高温抵抗 性誘導剤の適用評価を行う。			
		12-3 省エネ局所環境制御技術の開発 <委>	23-27	・作物部位や温室空間など環境制御対象の局所化により温室 の省エネが可能な技術を開発する。			

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
農業一般 (野菜) (メロン)	豊かさを支える農林業の強化	13 プレミアム完熟温室メロンの安定生産技術の確立<新>	(27-29)	温室メロンの新たな需要を創造するため、香りと食味が最高級の今までにないプレミアム完熟メロンを作出し、消費者に食べ頃で提供する技術を開発する。	品質・商品開発科 (松浦英之、豊泉友康、神谷径明)	静岡県農業経営士協会メロン部会	県単
		13-1 プレミアム完熟メロンの食味プロフィールの作成<新>	27-28	・メロンの香りと食味を評価し、最高級のプレミアム完熟メロンの定義を明らかにする。			
		13-2 プレミアム完熟メロンのための貯蔵・追熟条件の決定<新>	28-29	・プレミアム完熟メロンを作出するための貯蔵・追熟条件を明らかにし、消費者に食べ頃で最高級の完熟メロンを供給する技術を確認する。			
農業一般 (花き) (特産花き)	豊かさを支える農林業の強化	14 みかんの貯蔵性向上と切り花の新商品開発による静岡ブランドの強化<共>	(25-27)	花の老化制御技術を開発し、花の購買層、無購買層に購入してもらえる新商品を開発する。また、新商品の開発に当たっては、販売実証など試験を実施する。	花き科 (外岡慎、貫井秀樹、高橋由美香) 品質・商品開発科 (神谷経明)	みかん園芸課	県単 (新成長)
		14-1 切り花新商品の開発による消費の創出・拡大<共>	25-27	・本県独自の日持ち技術(ガーベラを対象とした老化抑制技術、バラを対象とした完熟切り花技術)を開発し、無購買層のニーズに対応した「手入れ不要で日持ちの良い」切り花商品を開発する。			
		14-2 マーケティング戦略によるブランド力の強化<共>	25-27	・新商品の市場性を評価するとともに、問題点等を抽出し、生産から販売までの各関係者が連携して、生産から消費までを通した実証試験を行う。			
農業一般 (経営) (作物・野菜・花き・茶・果樹)	豊かさを支える農林業の強化	15 静岡県農業の成長戦略を支える担い手育成に関する研究	(25-27)	ビジネス経営体の育成モデルを明らかにするとともに、新たな担い手として期待される企業参入やコミュニティ・ビジネスの波及効果とビジネスモデルを考察する。	経営・生産システム科 (大須賀隆司、山崎成浩)	農業振興課、農地保全課、土地改良連合会	県単
		15-2 ビジネス経営体育成モデルの作成	25-27	・本県農業の大宗を担うビジネス経営体の育成モデルと主要な品目に関する経営指標を作成する。			
		15-3 企業参入の評価とビジネスモデルの検討	25-27	・企業参入の意義と波及効果を明らかにし、その育成モデルを考察する。			
		15-4 コミュニティ・ビジネスの評価とビジネスモデルの検討	26-27	・コミュニティ・ビジネスの意義と波及効果を明らかにし、本県における優良事例を収集する。			

<新>:新規課題 <助>:国庫補助 <委>:国庫委託 <交>:国庫交付金 <受>:受託 <共>:共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
農業一般 (作物) (畑作)	住んでよし訪れてよし豊かな農山村づくり	16 雑草・害虫を抑制する水田畦畔管理技術の開発<委><共>	(25-27)	大規模経営体に向けた新たな畦畔雑草の管理技術を開発し、イネ科雑草を減少させカメムシによる虫害を軽減する。	作物科 (宮田祐二、白鳥孝太郎) 静岡大学、京都大学他 中央農研、北海道立総研機構他	中遠稲作研究会	県単 国庫委託 「土着天敵を有効活用した害虫防除システムの開発」 国庫委託 「多収阻害要因の診断法及び対策技術の開発」
		16-1 イネ科雑草を抑制する新しい畦畔管理技術の開発<委>	25-27	・イネ科雑草を減少させる畦畔管理技術を確立する。			
		16-2 グリホサート抵抗性ネズミムギ防除対策の確立<共>	25-27	・グリホサート抵抗性ネズミムギの代替除草剤の選定と効果的な散布法について検討する。			
農業一般 (作物)	住んでよし訪れてよし豊かな農山村づくり	17 蒸気処理防除機の活用による水田の病害虫・雑草等管理技術の確立<新><共>	(27-29)	蒸気処理防除機を活用し、もみ枯細菌病等の種子および残渣伝染性病害の抑制、スクミリンゴガイ等の防除、有機栽培等における雑草防除、採種圃の異品種混入防止を可能とする革新的な防除技術を確立する。	作物科(井鍋大祐、白鳥孝太郎) (株)丸文製作所	静岡県米麦協会、中遠農林事務所	県単
		17-1 蒸気処理による病害虫・雑草等死滅効果の検証<新><共>	27-28	・病害虫、雑草種子等に蒸気処理を行い、死滅効果を検証する。			
		17-2 蒸気処理防除機による病害虫・雑草等管理技術の実証、確立<新><共>	27-29	・効果的な蒸気処理防除機の活用体系を検討するとともに、水田に蒸気処理防除機を導入して、病害虫・雑草等管理技術を実証、確立する。			

<新>:新規課題 <助>:国庫補助 <委>:国庫委託 <交>:国庫交付金 <受>:受託 <共>:共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
農業一般 (野菜) (病害虫)	住んでよし訪れてよ し豊かな農山村づく り	18 施設園芸作物における進化型IPMを 構成する要素技術の開発<委><共><受>	(26-28)	環境の変化に対応した進化型 IPM を構築するため、新たな 防除手段による要素技術を開発する。	植物保護科 (鈴木幹彦、土 井誠、石川隆 輔、中野亮平、 墨岡宏紀、影山 智津子) 日本曹達㈱ 農業生物資源 研他 京都大、奈良県 他 理研、京都大他	JA 中央会、 JA とびあ浜 松、JA 遠州 夢咲、 温室農協	県単 受託 国庫委託 (SIP 視覚 イメージ) 国庫委託 (農林水産 省委託プロ ジェクト研 究) 国庫委託 (SIP 感染 制御)
		18-1 トマトの天敵利用を核とした黄 化葉巻病抑制要素技術の開発<受>	26-28	・黄化葉巻病を媒介するタバココナジラムの新たな天敵など の利用による防除法を開発する。			
		18-2 メロン害虫の光特性と天敵を利用 した IPM 要素技術の開発 <委><共>	26-28	・大型施設で、物理的防除技術として開発が進むLED光と天敵 を利用したミナミキイロアザミウマ防除の実用技術を開発 する。			
		18-3 紫外線の活用によるイチゴ病害 虫同時防除を目指した IPM 要素技術 の開発 <委><共>	26-28	・一部病害への効果が確認されている紫外線照射を害虫防除 まで対象を広げた汎用技術としての活用を検討する。 ・ハダニの薬剤抵抗性の実態を解析し、生物的防除法や物理 的防除法を取り込んだ薬剤抵抗性発達抑制システムを構築 する。			
		18-4 病害虫抵抗性誘導を活用した IPM 要素技術の開発 (H26~28) <委><共>	26-28	・養液(水耕)栽培等で殺菌・殺虫剤を代替する防除技術とし て、植物に対する病害虫抵抗性誘導等の活用を検討する。 ・イチゴ炭疽病の新規防除薬剤を開発する。			
18-5 新たに発生したメロン退緑黄化病 の伝搬経路の解明と根絶技術の確立<新 >	27-28	・温室メロンで新たに発生し拡大しつつあるウイルス病(メ ロン退緑黄化病)を撲滅するため、伝染経路を解明し、根 絶技術を確立する。					
農業一般 (野 菜) (病害虫)	住んでよし訪れてよ し豊かな農山村づく り	19 IPM (総合的病害虫管理) によるネギ 属作物の安定生産技術の開発<委><共>	(24-27)	ネギ属作物において問題となっているアザミウマや土壌 病害を防止するため、土着天敵や耕種的防除法、化学的防除 法を組み合わせた IPM を開発する。	植物保護科 (土井誠、鈴木 幹彦、石川隆輔 、中野亮平、墨 岡宏紀、影山智 津子) 中央農研、農環 研、千葉県 農環研、茨城県 ほか 野茶研、理研ほ か	中遠農林、西 部農林、JA とびあ 浜松、JA遠州 中央	県単 国庫委託 (農林水産 省委託プロ ジェクト研 究) 国庫委託 「次世代型 土壌病害診 断・対策技 術の開発」 国庫委託 (SIP 有用微 生物)
		19-1 土着天敵活用のための地域的生 態系システムの開発<委><共>	24-27	・ネギ属作物に有用な土着天敵の選抜と効率的な増殖植物を 明らかにし、ほ場周辺の土着天敵をほ場に誘導する方法を 開発する。			
		19-2 土着天敵と併用可能な農薬の選 抜と開発<委><共>	24-27	・土着天敵に影響の小さい薬剤を明らかにする。			
		19-3 土壌病害対策のための総合防除 技術の開発<委><共>	24-27	・化学的方法と耕種的方法、生物的防除法をを組み合わせた 土壌病害防除法を開発する。			
		19-4 I P M (総合的病害虫管理) の組 み立てと有効性実証<委><共>	26-27	・シロネギで I P M を組み立て、その有効性を現地実証する。			

<新>: 新規課題 <助>: 国庫補助 <委>: 国庫委託 <交>: 国庫交付金 <受>: 受託 <共>: 共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
農業一般 (作物・野菜・ 花き) (病害虫)	住んでよし訪れてよ し豊かな農山村づく り	20 新しい農薬の適応選抜<受> 20-1 殺菌、殺虫剤 <受> 20-2 除草剤 <受> 20-3 生育調節剤 <受> 20-4 農薬残留分析試料調製 <受>	(27) 27 27 27 27	新しい農薬の病害、虫害、雑草等に対する効果の検討及び安全性を検討するための試料調製を行う。 ・環境に及ぼす影響が少ない薬剤について病害虫に対する防除効果、安全な使用法を検討する。 ・農作地の雑草に有効な除草剤を選抜、安全な使用法を検討する。 ・農作物に有効な生育調節剤を選定し、安全な使用法を検討する。 ・環境保全、安全食糧の確保に資するため、農薬安全使用基準策定のための試料を得る。	各 科	JA、植物防疫 協会	受託
農業一般 (野 菜) (土壌肥料)	住んでよし訪れてよ し豊かな農山村づく り	21 牛ふん堆肥ベースの新肥料および土 壌中蓄積窒素の活用による効率的施肥 管理技術の開発<新><委><共> 21-1 牛ふん堆肥をベースとした新肥料 の製造と利用法の開発<新><委><共> 21-2 土壌消毒による土壌中窒素無機化 量の把握<新><共>	(27-31) 27-31 27-29	堆肥と化学肥料等を混合して成分調整した新肥料を開発するとともに、土壌消毒時における土壌蓄積窒素の動態を解明し、効率的な施肥管理技術を開発する。 ・牛ふん堆肥と化学肥料等を混合し、葉菜類向けに成分調整した新肥料(混合堆肥複合肥料)の製造条件、肥効調査、栽培実証試験を行い、効率的な施肥管理技術を開発する。 ・施設栽培において堆肥連用により蓄積した土壌中窒素からの、土壌消毒による無機化量を簡易に把握する方法を検討し、施肥窒素量を削減する技術を開発する。	土壌環境科(渥 美和彦、坂口優 子、福島務、鈴 木海平) (株)ホーチアグ リコ 中央農研	農山村共生 課、西部農林	県単 国庫委託 「生産コス トの削減に 向けた有機 質資材の活 用技術の開 発」
農業一般 (野 菜) (土壌肥料)	住んでよし訪れてよ し豊かな農山村づく り	22 分散型エネルギー社会に貢献する小 型メタン発酵プラントの開発 22 消化液活用法の開発 22-1 農作物への液肥利用技術 22-2 養液栽培への液肥利用技術	(26-28) 26-28 26-28	食品廃棄物をリサイクルするため、安価で小型のメタン発酵プラントを開発すると共に、メタン発酵消化液の農業への利用技術を開発する。 ・メタン発酵消化液の液肥としての利用技術を開発する。 ・メタン発酵消化液の養液栽培への利用技術を開発する。	土壌環境科 (福島務、渥美 和彦) 野菜科 (可児裕規、大 石直記) 山梨罐詰(株) 連携		県単 (新成長)

<新>:新規課題 <助>:国庫補助 <委>:国庫委託 <交>:国庫交付金 <受>:受託 <共>:共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
農業一般 (作物・野菜・ 花き) (土壌肥料)	住んでよし訪れてよ し豊かな農山村づく り	23 県内主要農耕地の土壌環境及び土壌 炭素モニタリング調査<委>	(26-30)	県内農耕地の土壌群、地目を代表する123定点の土壌環境の 実態を明らかにする。さらに重要定点について土壌炭素量を 営農活動と合わせて調査を行う。加えて、所内の堆肥連用ほ 場(昭和55年設置)において、有機物施用と炭素蓄積様式の関 係を明らかにする。	土壌環境科 (坂口優子、鈴 木海平、福島務 、渥美和彦)	経済連	県単 国庫委託「 農地土壌炭 素貯留等基 礎調査事業 」
		23-1 県内主要農耕地の土壌環境モニタ リング調査	26-30	・県内主要農耕地の土壌環境の実態を明らかにする。			
		23-2 県内主要農耕地の土壌炭素含有量 の実態把握と有機物施用が炭素蓄積 に及ぼす影響<委>	26-30	・県内主要農耕地土壌の炭素含有量の実態を明らかにすると ともに、有機物施用が土壌炭素蓄積に及ぼす影響を明らかに する。			

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

(2) 茶業研究センター

農林技術研究所 茶業研究センター No. 1

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
茶 業 (商品開発)	「場の力」を活用した 地域経済の活性化	1 ‘茶の都しずおか’を担う「第三の煎茶」 の開発〈共〉 1-1 安定生産可能な生葉香気発揚技術の 実用化〈共〉 1-2 既存の煎茶製造ラインを活用した香 気保持技術の確立 1-3 特徴ある香味の視覚化技術の開発 〈共〉	(26-28) 26-28 26-28 26-28	普通煎茶、深蒸し煎茶に続く、甘い花の香りをもつ煎茶 「第三の煎茶」を開発する。 ・甘い花の香りを発揚させる生葉香気発揚装置を開発す る。 ・発揚させた香気成分ができる限り茶に残る煎茶製造技術 を確立する。 ・普通煎茶、深蒸し煎茶の香りとは異なる甘い花の香りを 消費者に理解してもらうための表示方法を開発する。	商品開発科 (小林利彰、畑 中義生、後藤正、 勝野剛、植松恵 美子) 静岡県立大学、 カワサキ機工(株)	茶業農産課	県 単 (新成長)
茶 業 (育 種)	豊かさを支える農林 業の強化	2 新品種の育成〈委〉〈共〉 2-1 遺伝資源の収集、保存 2-2 変異の拡大 〈委〉〈共〉 2-3 個体選抜 2-4 栄養系比較試験	(23-27) 23-27 23-27 23-27 23-27	収集、保存された遺伝資源を利用し、香味に優れた市場 性が高い品種、耐寒性、耐病・耐虫性の品種を早期に育成 する。 ・チャ遺伝資源の収集、保存を図る。 ・人為交配あるいは突然変異等により新しい遺伝子型を 作出する。 ・交雑実生群等を育成し、その中から有望個体を選抜する。 ・有望系統を比較試験し、優良系統を選抜する。	栽培育種科 (小柳津勤、片 井秀幸、高橋冬 実) 農業生物資源研 究所	茶業農産課	県 単 国庫委託 (SIP)
茶 業 (育 種)	豊かさを支える農林 業の強化	3 品種の選定 3-1 奨励品種選定試験	(23-27) 23-27	本県で育成した優良系統と独法や他府県で育成した優 良系統等について、生育・収量・品質の特性を比較検討し 、静岡県の奨励品種としての適性を持った品種を選定する 。	栽培育種科 (小柳津勤、片 井秀幸、高橋冬 実)	茶業農産課	県 単
茶 業 (育 種)	豊かさを支える農林 業の強化	4 チャ育成地育成系統の地域評価試験 〈委〉〈共〉	(26-30)	温暖地育成地で育成された系統について、生育や耐寒性 、耐病虫性、収量性、品質等の諸特性を明らかにする。併 せて、中山間地における重要病害であるもち病に対する抵 抗性を、ほ場発生レベルで明らかにする。	栽培育種科 (小柳津勤、片 井秀幸、高橋冬 実) (独)野菜茶業研 究所	茶業農産課	国庫委託 (農食研)

〈新〉：新規課題 〈助〉：国庫補助 〈委〉：国庫委託 〈交〉：国庫交付金 〈受〉：受託 〈共〉：共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
茶 業 (育 種)	豊かさを支える農林業の強化	5 品種茶利用促進のための特性解明<新> 5-1 新品種「ゆめするが、しずかおり」の特性評価<新> 5-2 被覆特性評価<新> 5-3 生葉香気発揚特性評価<新>	(27-31) 27-31 27-31 27-31	近年育成した新品種について、品種茶の利用範囲の拡大を図るため、普通煎茶以外の特性を明らかにする。 ・新品種「ゆめするが、しずかおり」に適した蒸度を明らかにする ・おい茶（白葉茶、かぶせ茶、碾茶など）生産のための被覆処理に適した品種を選定する。 ・香り緑茶（静岡型発酵茶、「第三の煎茶」など）生産に適した品種を選定する。	栽培育種科 (片井秀幸、小柳津勤、高橋冬実)	経済連	県単
茶 業 (栽 培)	豊かさを支える農林業の強化	6 夏季被覆による干ばつ被害防止技術の確立 6-1 夏季の干ばつがその後の茶樹に及ぼす影響 6-2 被覆による干ばつ防止技術の開発	(26-28) 26-28 26-28	水利の劣る茶園において、かん水に代替する被覆による干ばつ防止技術を確立する。 ・夏季の軽微な干ばつが一番茶の収量、品質に及ぼす影響を明らかにする。 ・被覆資材の種類や被覆時期が水分ストレス、葉温上昇、翌年一番茶に及ぼす影響を明らかにし、被覆による干ばつ防止技術を確立する。	栽培育種科 (中野敬之、大石哲也)	経済連	県単
茶 業 (栽 培) (土壌肥料) (病虫害)	豊かさを支える農林業の強化	7 国内需要向け茶生産における高収益生産体系の実証研究<委><共> 7-1 省力的な施肥・IPM防除等の茶園管理技術を活用した生葉生産技術体系の実証<委><共> 7-2 茶園データ管理による計画的・戦略的茶園マネジメントの実証<委><共>	(26-27) 26-27 26-27	近年に開発した技術を特定の栽培現地に総投入して、経営に及ぼす効果を検証する。 ・局所施肥、かん水同時施肥、IPM、白葉茶などの技術を栽培現地で実証する。 ・生葉受け入れソフトにメッシュ農業気象データを組み込み、予測に基づく計画的な作業が行える技術体系を確立する。	栽培育種科 (中野敬之、大石哲也、鈴木利和) 生産環境科 (小杉由紀夫、外側正之、小澤朗人、小杉徹、内山徹) (独)野菜茶業研究所	茶業農産課	国庫委託 (攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業)

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
茶 業 (土壌肥料)	豊かさを支える農林業の強化	8 根圏を制御する茶液肥管理技術の確立 8-1 根圏を制御する茶液肥管理の根圏形成要因の解明 8-2 根圏を制御する茶液肥管理技術が収量・品質に及ぼす影響 8-3 現地実証試験	(26-28) 26-28 26-28 26-28	液肥量を抑えることで肥料拡散を根圏部分に制御することにより、高品質な茶葉生産と環境にやさしい施肥を同時に実現する茶液肥管理技術を確立する。 ・液肥管理に適した茶樹の吸収根の根圏形成要因を明らかにする。 ・液肥の液量、施用回数、濃度が、根圏形成及び収量、品質に及ぼす影響を明らかにする。 ・根圏を制御する茶液肥管理技術を栽培現地で実証する。	生産環境科 (小杉徹、若澤秀幸)	中遠農林事務所	県 単
茶 業 (栽 培)	豊かさを支える農林業の強化	9 被覆茶需要に応える簡易な樹体診断法と効率的被覆作業による高品位安定生産体系の確立<新><委> 9-1 茶樹に対する被覆の影響評価手法の高度化および被覆作業の効率化<新><委> 9-2 生産現場における樹体診断法および効率的被覆作業体系の確立<新><委> 9-3 被覆茶安定生産マニュアルの作成と経営的評価<新><委>	(27-29) 27-29 27-29 28-29	急増する被覆茶需要に対応するため、被覆茶樹の診断技術と被覆作業の高効率化技術により被覆茶の安定生産体系を確立する。 ・強遮光が樹体に及ぼす影響および被覆アタッチメントによる作業性向上効果を明らかにする。 ・白葉茶生産茶園において樹体診断法と効率的被覆作業体系の現地実証を行う。 ・白葉茶の安定生産のためのマニュアルを作成し、技術導入による経営向上効果を明らかにする。	栽培育種科 (鈴木利和、片井秀幸、大石哲也)	ハイナン農協	国庫委託 (農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業)
茶 業 (商品開発)	豊かさを支える農林業の強化	10 発酵茶の品質に関する実態調査及び発酵工程の管理支援システムの構築 10-1 県内発酵茶の品質特性に関する実態調査 10-2 発酵工程における香り成分の推移 10-3 発酵工程管理支援システムの構築	(26-28) 26-28 26-28 26-28	発酵茶(紅茶)の発酵工程の管理支援システムを構築し、県内で生産される発酵茶の品質向上を図る。 ・国産発酵茶の品質特性を調査し、販路開拓とアピールに不可欠な情報を収集する。 ・発酵工程における発酵茶の香り発揚と発酵度の関係を明らかにする。 ・これまで経験と勘に頼る発酵度の判断を客観的データに基づき支援する発酵工程管理支援システムを構築する。	商品開発科 (植松恵美子、後藤正、小林利彰、畑中義生、勝野剛)	JA掛川市 (榎寺田製作所)	県 単

<新>: 新規課題 <助>: 国庫補助 <委>: 国庫委託 <交>: 国庫交付金 <受>: 受託 <共>: 共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
茶 業 (病害虫)	住んでよし訪れてよ し豊かな農山村づく り	11 ハマキガ類の殺虫剤抵抗性機構の解明 と抵抗性診断技術の開発〈委〉〈交〉〈共 〉 11-1 殺虫剤抵抗性チャノコカクモンハマ キの発生実態把握〈委〉〈共〉 11-2 殺虫剤抵抗性チャハマキの発生実態 把握〈交〉 11-3 殺虫剤抵抗性機構の解明〈委〉〈共〉 11-4 殺虫剤抵抗性診断技術の開発 〈委〉〈共〉	(26-30) 26-30 26-30 26-30 26-30	ハマキガ類の殺虫剤抵抗性の実態を把握するとともに遺 伝子解析により抵抗性機構を解明し、これまでの室内検定 に変わる遺伝子解析による抵抗性診断技術を開発する。 ・チャノコカクモンハマキにおける殺虫剤抵抗性の実態を 把握する。 ・チャハマキにおける殺虫剤抵抗性の実態を把握する。 ・抵抗性遺伝子解析により殺虫剤抵抗性機構を解明する。 ・遺伝子解析による殺虫剤抵抗性診断技術を開発する。	生産環境科 (内山徹、小澤 朗人) 農業生物資源研 究所	相良物産	国庫委託 (委託プロ) 国庫交付金 (食の安全 安心交付)
茶 業 (病害虫)	住んでよし訪れてよ し豊かな農山村づく り	12 チャ赤焼病の生態解明と防除法の開発 〈交〉 12-1 病原菌の生態の解明〈交〉 12-2 防除法の開発〈交〉	(25-27) 25-27 25-27	チャ赤焼病の発生実態を詳細に調査し、病原菌の生態を 解明し、安定かつ効率的な防除法の確立を図る。 ・病原菌の生態を解明する。 ・防除法を開発する。	生産環境科 (外側正之)	相良物産	国庫交付金 (食の安全 安心交付)
茶 業 (病害虫)	住んでよし訪れてよ し豊かな農山村づく り	13 新農薬実用化試験〈受〉 13-1 新殺虫剤、殺菌剤の選抜	(27) 27	日本植物防疫協会等から委託された農薬登録のための効 果試験等を行う。	生産環境科 (外側正之、小 澤朗人、内山徹)	日植防	受 託
茶 業 (病害虫) (土壌肥料)	住んでよし訪れてよ し豊かな農山村づく り	14 新農薬・新肥料及び新資材等の効果確 認及び使用法の検討〈受〉 14-1 新農薬の使用法の検討〈受〉 14-2 新肥料の効果の検討〈受〉 14-3 新資材等の効果の検討〈受〉	(27) 27 27 27	新農薬、新肥料、新資材等の効果及び効率的な使用方法 を明らかにする。 ・新規登録農薬の適正な使用方法を検討する。 ・新肥料の効果と適正な使用方法を検討する。 ・新資材等の有効性を検討する。	生産環境科 (小杉由紀夫、 小杉徹、若澤秀 幸、外側正之、 小澤朗人)	肥料協会 日植防	受 託

〈新〉：新規課題 〈助〉：国庫補助 〈委〉：国庫委託 〈交〉：国庫交付金 〈受〉：受託 〈共〉：共同研究

(3) 果樹研究センター

農林技術研究所 果樹研究センター No. 1

部 門	試験研究展開の 基 本 方 向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
果 樹 (栽培育種)	「場の力」を活用した 地域経済の活性化	1 ブルーベリー、カキ、スモモウメ、イチジクの規模拡大に向けた生産性向上技術の開発<新><共> 1-1 ブルーベリーの収穫労力削減のための房採り収穫技術の確立<新> 1-2 県内カキ品種における酵素剥皮処理による省力供給技術の開発<新><共> 1-3 スモモウメ‘李梅’（りばい）の安定生産に向けた台木の選抜<新> 1-4 水稲育苗ハウス等の有効利用に向けたイチジクコンテナ移動栽培技術の開発<新>	(27-30) 28-30 27-28 27-28 27-30	力強い果樹産地の育成を目指し、特に高単価が期待できるブルーベリー、カキ、スモモウメ、イチジクの規模拡大に向けた新技術を開発する。 ブルーベリーの収穫労力の省力化に向け、房採り収穫に適した品種、栽培法を明らかにする。 (国)果樹研究所が開発した酵素剥皮技術の条件を県内品種で明らかにし、剥皮作業を省力化する。 接木部が折損しにくい台木を選抜し、安定生産を実現する。 低コスト化での果樹の移動方法とコンテナ果樹の軽量化を図ることにより、移動式コンテナ栽培を開発し、イチジクで実用化を図る。	落葉果樹科 (村上覚、服部憲明、山口和希、佐々木俊之) (国)果樹研究所	落葉果樹振興協会・丸浜柑橘連	県 単
果 樹 (栽培、商品開発)	「場の力」を活用した 地域経済の活性化	2 みかんの貯蔵性向上と切り花の新商品開発による静岡ブランドの強化<共> 2-1 みかんの長期安定貯蔵技術の開発による消費の創出・拡大<共> 2-2 マーケティング戦略によるブランド力の強化<共>	(25-27) 25-27 25-27	温暖化の進展により貯蔵庫内の温度が上昇し、2月中旬以降の貯蔵が困難な状況にあることから、貯蔵果実の体質を高め、腐敗を防止することで貯蔵果実の損失を減少させる技術を開発するとともに、それらを活用した新機能型貯蔵庫を開発する。 光触媒や天然素材、紫外線、LED 光等を活用した温州みかん貯蔵果の腐敗抑制・付加価値向上技術を開発する。また、開発した新技術を常温・冷風貯蔵庫に組み込み、新しい機能型貯蔵庫を開発する。 3～4月出荷の静岡みかんの市場性評価を明らかにするとともに、長期安定出荷体制確立に向けた販売戦略を策定する。	栽培育種科 (山家一哲、小林康志、中村茂和、瀧崎櫻、永嶋友香) 生産環境科 (加藤光弘) (国)果樹研究所 他	みかん園芸課、JA みっかび	県 単 (新成長)

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

部 門	試験研究展開の 基 本 方 向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
果 樹 (育 種)	豊かさを支える農林 業の強化	3 果樹新品種の育成と適応性検定<委> <共> 3-1 特徴的な形質を有する果樹新品種の 育成 3-2 (国)果樹研究所育成果樹系統適応性 検定試験<委><共>	(23-27) 23-27 23-27	果樹の地域ブランドを開発するために、新品種を育成し、情報を提供する。 晩生または早熟性で端境期出荷が可能な品種や外観・果皮色等の形質に特徴のある高品質な品種を育成する。 (国)果樹研究所で新たに育成された果樹品種について、本県における適応性を検討する。	栽培育種科 (中村茂和、小林康志、永嶋友香) 落葉果樹科 (服部憲明、村上覚、佐々木俊之) (国)果樹研究所 他	JA・経済連	県 単 国庫委託
果 樹 (栽培)	豊かさを支える農林 業の強化	4 カンキツ経営を強化する県オリジナル 品種・系統の安定生産技術の確立<新> 4-1 ‘静丸早生’のス上がり症状の原因 究明と軽減技術の確立<新> 4-2 「S1200(1月採り温州)」の安定生産 技術の確立<新> 4-3 「静姫(品種登録出願中：3月出荷中 晩柑)」の安定生産技術の確立<新>	(27-29) 27-29 27-29 27-29	青島温州主体の経営を補完する当センターで育成した品種・系統について、導入リスクの軽減や生産力を向上させるために、安定生産技術の確立を図る。 現地試作で指摘された「ス上がり果」の発生要因を明らかにするとともに、対策技術を開発する。 初期生育特性を明らかにするとともに、高品質安定生産に向けた栽培管理技術を確立する。 初期生育特性を明らかにするとともに、高品質安定生産に向けた栽培管理技術を確立する。	栽培育種科 (古屋雅司、山家一哲、中村茂和、小林康志、瀧崎櫻、永嶋友香)	丸浜柑橘農業協同組合 連合会	県 単
果 樹 (栽培)	豊かさを支える農業 の強化	5 カキ、キウイフルーツ育成新品種の利用 法の開発<新><共><受> 5-1 カキわい性台木の利用技術の開発 <新><共> 5-2 キウイフルーツ‘静岡ゴールド(品 種登録出願中)’の特性を利用した 年末出荷体系の構築<新><受>	(27-29) 27-29 27-29	育成新品種の早期普及を図るため、利用技術を開発する。 カキわい性台木の性質に合わせた台木の茎頂培養苗の早期育成技術および、早期成園化に向けた優良大苗生産技術を開発する。 キウイフルーツ‘静岡ゴールド(品種登録申請中)’の追熟特性および貯蔵性を明らかにすることで年末出荷に向けた出荷体系を構築する。	落葉果樹科 (服部憲明、村上覚、佐々木俊之) 浜松市農業バイオセンター	落葉果樹振 興協会	県単 中央果実協会

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

部 門	試験研究展開の 基 本 方 向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
果 樹 (栽培、土壌 肥料、病害 虫)	豊かさを支える農業 の強化	6 大規模みかん経営を目指した静岡方式 垣根型成園化技術に関する研究 6-1 作業省力化可能な垣根型樹形管理技 術の確立 6-2 早期成園化のための養水分管理技術の 確立 6-3 耐性台木を利用した温州萎縮病対策 技術の開発	(26-28) 26-28 26-28 26-28	省力化と未収穫機関の短縮、安定多収を確保できる養水分管理技術と樹形管理技術の開発及びSDV 耐性台木の選抜を行い、【静岡方式垣根型成園化技術】を構築する。 作業の省力化が可能な垣根型のわい化樹形を作る樹形管理技術を開発する。 未収穫期間を1年短縮する苗木の養水分管理技術を確認する。 SDV 耐性台木系統を選抜するとともに、増殖技術を開発する。	生産環境科 (中村明弘、吉川 公規、加藤光弘) 栽培育種科 (古屋雅司、濱 崎櫻、永嶋友香) (国)果樹研究所 他	みかん園芸 課	県 単 (新成長)
果樹 (病害虫)	住んでよし訪れてよ し豊かな農山村づく り	7 耐病性品種等を利用した温州萎縮病対 策技術の開発<委><共> 7-1 温州萎縮病に対する耐性品種の選抜< 委><共>	(25-27) 25-27	温州萎縮病は土壌伝染性のウイルス病害で、一度発生すると防除が困難であるため、産地では発生園地が増加傾向にある。そのため、土壌消毒することもなく、汚染土壌においても栽培を可能とする技術を開発する。 ・ウイルス増殖過程や樹体への影響を調査し、中晩柑の新品種からウイルス耐性品種を選抜する。	生産環境科 (加藤光弘、増 井伸一) 静岡大学	経営士協会、 青年農業士 会	県単 国庫委託
果 樹 (病害虫)	住んでよし訪れてよ し豊かな農山村づく り	8 カンキツ主要害虫の土着天敵を活用す る総合的病害虫管理体系の確立<委><共> 8-1 土着天敵を活用する管理技術の確立< 委><共> 8-2 土着天敵を活用する総合的病害虫管 理体系の検証<委><共>	(25-27) 25-26 26-27	ミカンハダニやチャノキイロアザミウマ等の害虫について、土着天敵を有効活用する管理技術を確認し、これらの技術を組み合わせた総合的病害虫管理体系を構築する。 土着天敵を温存し、有効活用できる植生管理技術を確認し、併せて土着天敵に影響の小さい薬剤を選抜する。 土着天敵を活用できる各種管理技術を組み合わせた防除体系を検証し、問題点の改善を通じてその確立を図る。	生産環境科 (片山晴喜、増井 伸一) (国)果樹研究 所他	農林事務所	国庫委託

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

部 門	試験研究展開の 基 本 方 向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
果 樹 (病害虫)	住んでよし訪れてよ し豊かな農山村づく り	9 カンキツ園における生物多様性の機能を 活用した害虫管理技術の開発<新>	(27-29)	カンキツ園が保持する生物多様性の機能を 活用して、サビダニ、アザミウマ、カイガ ラムシの管理技術を開発し、エコファ ーマー制度に沿ったマニュアル化を行 う。	生産環境科 (増井伸一、片山 晴喜)	農山村共生 課	県単
		9-1 生物多様性の機能活用技術の開発<新 >	27-28	カンキツ園内外の多様な植物により強化 される天敵群集等を活用した害虫密度抑 制技術を開発する。			
		9-2 生物多様性の機能活用技術と既存技 術による体系化<新>	28-29	生物多様性機能阻害要因の排除や既存 技術との体系化により、殺虫剤使用低減 と効率的害虫管理の両立を図る。			
果 樹 (病害虫)	住んでよし訪れてよ し豊かな農山村づく り	10 キウイフルーツかいよう病新系統Psa3 の対策技術の確立 (27-29) <新> <委> <共>	(27-29)	病原性が高い新系統のキウイフルーツ かいよう病 Psa3 の被害実態を把握する とともに、防除体系を確立する。	生産環境科 (加藤光弘) 落葉果樹科 (村上覚)	農山村共生 課	国庫委託
		10-1 キウイフルーツかいよう病新系統Ps a3 による被害状況の把握<新>	27-28	キウイフルーツかいよう病の新系統 Psa3 による県内の被害状況を調査し、現状を 把握する。	(国) 果樹研究 所他		
		10-2 新資材による防除体系の確立<新> <委> <共>	28-29	化学農薬等による防除法を確立し、病 気のまん延を防ぐ。			
果 樹 (農薬・土壌 肥料)	住んでよし訪れてよ し豊かな農山村づく り	11 生育調節及び病虫害防除等新資材の 開発<委><受>	(27)	新しい植物生育調節剤および病虫害 防除剤等の特性解明と利用法の開発、 害虫防除コストの低減と農薬による危 害防止のための天敵利用技術を開発 する。	栽培育種科 (瀨崎櫻、永嶋 友香) 生産環境科 (吉川公規、片山 晴喜、増井伸一、 中村明弘、加藤 光弘) 落葉果樹科 (服部憲明、村上 覚、山口和希、 佐々木俊之)	植防協会	受託 国庫委託 (攻めの農 林水産業の 実現に向け た革新的技 術緊急展開 事業)
		11-1 生育調節剤・除草剤等資材利用 法の開発<委>	27	「安全農薬開発利用委託試験事業」 等による、新植物調節剤、除草剤等 資材の効果、薬害及び安全性の解明と ともに高度利用技術を開発。			
		11-2 殺虫剤・殺菌剤利用法の開発<受>	27	「安全農薬開発利用委託試験事業」 等により、新殺虫剤、殺菌剤の効果、 薬害及び安全性の解明とともに高度利 用技術を開発			

<新>: 新規課題 <助>: 国庫補助 <委>: 国庫委託 <交>: 国庫交付金 <受>: 受託 <共>: 共同研究

部 門	試験研究展開の 基 本 方 向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
果 樹 (土壌肥料)	住んでよし訪れてよ し豊かな農山村づく り	12 ヒトと環境に優しい柑橘における年 1 回施肥法の確立<委>	(26-28)	肥効調節型肥料の利用による施肥回数の削減技術と、土 壌中難溶性リンの有効化技術を活用し、より省力的かつ低 コストである年 1 回施肥法を確立する。	生産環境科 (中村明弘、吉川 公規)	肥料協会	県 単 国庫委託 (攻めの農 林水産業の 実現に向け た革新的技 術緊急展開 事業)
		12-1 年 1 回を可能とする効率的施肥法の 解明<委>	26-28	代表的な県内産地土壌において、肥料組成、施肥時期が 肥効持続期間や土壌化学性に及ぼす影響と、連年施用によ る樹体栄養や果実品質等に及ぼす影響を解明する。			
		12-2 リンの吸収を高める資材活用技術の 解明	26-28	クエン酸資材等による難溶性リンの利用程度と、土壌や 果実品質等への影響を解明する。			

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

(4) 伊豆農業研究センター

農林技術研究所 伊豆農業研究センター No. 1

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
伊豆農業 (野菜、花き、 果樹、その他) (栽培育種) (商品開発)	「場の力」を活用した 地域経済の活性化	1 カワヅザクラ等新規伊豆特産作物の生産技術の確立	(26-28)	カワヅザクラの切り枝、キイチゴ属野生種、賀茂十一野菜を、伊豆特産作物として産地が形成されるよう生産技術を確認する。	栽培育種科 (種石始弘、馬場明子、武藤浩志、大住太良) わさび科 (久松 奨)	河津花卉園芸組合	県 単
		1-1 カワヅザクラ切り枝の生産技術確立	26-28	生産方法開発、需要拡大等を総合的に実施し、生産技術を確認する。			
		1-2 キイチゴ属野生種の生産技術確立	26-28	果実の安定供給のため、品質と収量の安定した省力的栽培方法を開発する。			
		1-3 賀茂十一野菜等の生産技術確立	26-28	品目ごと生育に適する圃場条件を考慮し、生産性の高い栽培技術を開発する。			
伊豆農業 (花 き) (カーネーション) (育 種)	「場の力」を活用した 地域経済の活性化	2 カーネーション新品種の育成と特性調査<委>	(23-27)	本県の切り花、鉢物カーネーション産地の市場性向上と経営安定のために独自品種を育成する。	栽培育種科 (加藤智恵美、武藤貴大)	静岡県東部花き流通センター農協	県 単 国庫委託 「日持ち性向上対策実証事業」
		2-1 交配による有望品種の育成	23-27	交配実生により有望系統を選抜する。			
		2-2 育成品種の特性解明および栽培体系の確立<委>	23-27	有望系統の栽培特性を明らかにして、栽培体系を確立する。			
伊豆農業 (花 き) (特産花き)	「場の力」を活用した 地域経済の活性化	3. マーガレット等伊豆特産花きの育成と生育特性の解明<委> <受>	(23-27)	幅広い花色・草姿等新形質の特性を持つマーガレット新品種の育成と伊豆地域に適した花き類の特性調査を行う。	栽培育種科 (武藤貴大、加藤智恵美)	静岡県東部花き流通センター農協、JA伊豆太陽	県 単 国庫委託 「日持ち性向上対策実証事業」 受託(日本種苗協会)
		3-1. 交配・自然実生等によるマーガレット新品種の育成	23-27	交配・自然実生により切花、鉢物、花壇等に適した白、桃、黄花等のマーガレット新品種を育成する。			
		3-2. マーガレット育成品種の生育特性の解明<委>	23-27	マーガレット育成品種の生育特性を把握する。			
		3-3. 伊豆特産花き類の生育特性の解明<受>	23-27	伊豆地域に適する花き品目・品種を選定し、生育特性を明らかにする。			

<新>: 新規課題 <助>: 国庫補助 <指>: 指定試験 <委>: 国庫委託 <交>: 国庫交付金 <受>: 受託 <共>: 共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
伊豆農業 (野 菜) (ワサビ) (育 種)	「場の力」を活用した 地域経済の活性化	4 ワサビ種子繁殖系統の育成選抜	(23-27)	種子繁殖が可能で、揃いが良く安定した生産ができる系統を育成する。	わさび科 (馬場富二夫、 久松 奨、西島 卓也)	県農業経営 士会ワサビ 部会	県 単
		4-1 交雑による有望系統の育成	23-27	優良な形質を有し、種子繁殖しても形質が維持される品種を育成する。			
		4-2 ワサビ有望系統早期選抜手法の開発	23-27	育種期間短縮のため、種子の発芽不安定要因を解明し、育苗期における選抜法を開発する。			
		4-3 有望系統の評価および種苗増殖体制の確立	25-27	育成された有望品種の現地での評価法を確立するとともに、種苗増殖体制を整備する。			
伊豆農業 (中晩柑)	豊かさを支える農林 業の強化	5 伊豆地域の立地条件に適した果樹品種の育成・選抜	(23-27)	伊豆地域は、冬季に温暖湿潤で中晩柑類等の栽培に適するとともに、河津桜祭等観光客も多いため、これらの立地を生かして、果樹の新商品を開発する。	栽培育種科 (馬場明子、武 藤浩志)	県経済連、 JA伊豆太陽	県 単
		5-1 伊豆地域の立地条件に適した果樹品種の育成	23-27	伊豆地域の気象・土壌条件に適応し、観光地伊豆の特性を生かせるオリジナル果樹品種を開発する。			
		5-2 伊豆地域の立地条件に適した果樹品種の選抜	23-27	独立行政法人や他県の場所、民間で育成された果樹品種の導入と選抜を行う。			
伊豆農業 (中晩柑)	豊かさを支える農林 業の強化	6 ヒュウガナツ系新品種の導入と生産安定技術の体系化<新>	(27-29)	ヒュウガナツ系新品種の特性を生かし、高糖度や無核果など高品質果実を早期・安定的に生産するための技術体系を開発する。	栽培育種科 (武藤浩志、馬 場明子)	JA伊豆太陽	県 単
		6-1 早期成園化技術の開発<新>	27-29	仕立て方やかん水同時施肥により、早期成園化技術を開発する。			
		6-2 高品質安定生産技術の開発<新>	27-29	冷温貯蔵、剪定早期化を組み合わせた高品質安定生産技術を開発する。			
		6-2 無核・少核果条件の解明<新>	28-29	受粉樹の種類や設置方法により無核・小核果条件を解明する。			

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <指>：指定試験 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
伊豆農業 (野 菜) (ワサビ) (花き) (果樹) (病害虫)	住んでよし訪れてよ し豊かな農山村づく り	7 農作物品種及び生産資材の比較、検 定、調査	(27)	試験研究機関として、日常的、地域的に対応する事項 で、単年度あるいは課題化以前のもので、比較、検定調 査が必要となる研究的事項について検討する。	栽培育種科 わさび科	県農業経営 士会ワサビ 部会等	県 単
		7-1 農作物品種の比較、検定	27	・新発表品種、既存品種・系統、新作物等の比較を行う。			
		7-2 肥料、農薬等の効果検定、調査	27	・新開発肥料、農薬等の検定調査を行う。			
		7-3 資材機械等の性能調査	27	・被覆材、新型機械、器具の調査を行う。			

〈新〉：新規課題 〈助〉：国庫補助 〈指〉：指定試験 〈委〉：国庫委託 〈交〉：国庫交付金 〈受〉：受託 〈共〉：共同研究

(5) 森林・林業研究センター

農林技術研究所 森林・林業研究センター No. 1

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
森林・林業 (木材加工)	「場の力」を活用した 地域経済の活性化	1 “森林の都”を実現する県産材の需要と供給の拡大のための技術開発 〈共〉	(26-28)	外国産材や非木質材料が主流の外構部材や内装材を県産材製品に転換し、新たな用途開拓を進めるため、消費者ニーズに対応した製品開発や木質空間デザインの提案、IT技術を活用した低コスト原木供給システムの開発を行う。	木材林産科 (渡井純・星川健史・野末尚希・池田潔彦)	林業振興課 地域産業課	県 単 (新成長)
		1-1 ニーズに応じた新たな木製品の開発 〈共〉	26-28	耐久性と寸法安定性に優れた外構材や難燃内装材と針葉樹に適した塗装技術を開発する。	県工業技術研究所・県内企業ほか		
		1-2 原木流通スマート化に関する技術開発 〈共〉	26-28	原木生産情報の収集及び分析システムや画像処理技術を用いた自動検品システムの開発を行う。			
森林・林業 (育 種)	豊かさを支える農林業の強化	2 森林・林業再生を加速する静岡型エリートツリーによる次世代省力造林技術の開発	(25-29)	主伐と確実な植林を促進するため、成長やその他の性質に優れたエリートツリーの作出と、コンテナ苗造林技術とを融合した省力的再造林システムを開発する。	森林育成科 (袴田哲司・近藤晃・加藤徹・大場孝裕・山田晋也・猿田けい)	森林整備課 林業振興課	県 単 (新成長)
		2-1 エリートツリーの品種開発	25-29	高成長、高強度、少花粉等の特性を併せ持つスギ優良品種を作出する。	木材林産科 (野末尚希) 森林管理署ほか		
		2-2 コンテナ苗による省力的造林技術の開発	25-29	コンテナ苗生産技術や植栽機械を開発する。また、伐採と一体的に行う更新手法による作業の省力化を検証する。			
森林・林業 (特用林産)	豊かさを支える農林業の強化	3 環境の変化に対応したシイタケ等栽培技術の開発〈交〉	(24-28)	シイタケ等の生産を取り巻く自然環境や社会環境の変化に対応した栽培技術を開発する。	木材林産科 (山口亮) 森林育成科 (加藤徹)	東部農林 県椎協	国庫交付金 (林業普及 システム化 事業)
		3-1 自然環境の変化に対応した栽培技術の開発〈交〉	24-28	高温期に安定的に生産する菌床栽培技術及び気象変化に対応した原木栽培技術を開発する。			
		3-2 社会環境の変化に対応した栽培技術の開発〈交〉	24-28	未利用原木林を活用した省力栽培技術及び栽培に使われていない平坦地を活用した栽培技術を開発する。			
		3-3 原木シイタケの放射能対策技術の開発	24-25	安全に使用できる原木林・ほた場選別技術や放射性セシウム低減技術を開発する。			

〈新〉：新規課題 〈助〉：国庫補助 〈指〉：指定試験 〈委〉：国庫委託 〈交〉：国庫交付金 〈受〉：受託 〈共〉：共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
森林・林業 (林業経営・ 林業機械)	豊かさを支える農林 業の強化	4 高効率化を目指した森林経営システム に関する研究<交>	(25-27)	木材生産量を増大させるため、伐採木の利用率と生産 効率の向上を目指した作業システムを開発する。	木材林産科 (野末尚希・渡井 純)	天竜材安定 供給連絡協 議会 志太榛農林	国庫交付金 (林業普及 システム化 事業)
		4-1 地域特性を活かした作業システムの 提示<交>	25-27	伐採現場から市場や工場等の販路までを念頭に置いた 地域の特性にあった作業システムの検討を行う。			
		4-2 高速自走式搬器を活用した架線系作 業システムの構築<交>	25-27	高速自走式搬器を使用した皆伐・間伐作業の効率的な作 業システムの検討を行う。			
森林・林業 (特用林産・ 森林保護)	住んでよし訪れてよ し豊かな農山村づく り	5 シイタケ生産における原木・菌床栽培上 及び原木林育成上の害虫対策に関する研 究	(25-29)	シイタケ栽培において問題となっている害虫について、 栽培法ごとに対策を究明する。また、原木林の脅威となる ナラ枯れ対策についても究明する。	森林育成科 (加藤徹) 木材林産科 (山口亮)	森林整備課 林業振興課	県 単
		5-1 シイタケ栽培における害虫の被害対 策	25-29	ほだ木のコチャイロコメツキダマシや菌床のキノコバ エ類などの害虫対策を解明する。			
		5-2 シイタケ原木のナラ枯れ防除技術の 開発	25-29	ナラ枯れを引き起こすカシノナガキクイムシについて 分布拡大様式と防除技術の解明を図る。			
森林・林業 (育林)	住んでよし訪れてよ し豊かな農山村づく り	6 針葉樹人工林伐採後の早期森林再生技 術に関する研究	(23-27)	森林の持つ水土保全や生物多様性保全等の機能を、早期 に発揮させるための施業技術を開発する。	森林育成科 (加藤徹・猿田け い)	森林計画課 東部農林 西部農林天 竜局	県 単
		6-1 抜き伐りによる針広混交林造成技術 の高度化	23-27	森林再生困難地の原因を究明し、更新を促進させるため の技術開発を行う。			
		6-2 皆伐造林未済地等の天然更新技術の 開発	23-27	造林未済地の植生調査を行い、立地環境ごとの植生遷移 の過程を解明し、更新植生を予測する更新可否基準の策定 を行う。			

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <指>：指定試験 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

部 門	試験研究展開の基本方向	試験研究課題名・細目課題名	研究期間	課 題 内 容 説 明	担 当	要望元	予算区分
森林・林業 (森林保全)	住んでよし訪れてよし豊かな農山村づくり	7 津波に強い多機能海岸防災林に対応した苗木生産と造成管理の技術開発 7-1 多機能海岸防災林へ植栽する種苗生産技術の開発 7-2 多機能海岸防災林の造成技術の開発	(26-30) 26-28 26-30	津波に強い多機能な海岸防災林を早期に確実に造成するため、抵抗性クロマツや広葉樹の苗木を大量生産する技術や海岸林造成及び育成管理技術を開発する。 松くい虫抵抗性クロマツのさし木による大量生産技術や海岸に適した広葉樹のコンテナ苗生産技術を開発する。 防潮堤盛土へ海岸防災林を造成する技術や海岸防災林の機能向上を図る育成管理技術を開発する。	森林育成科 (猿田けい・袴田哲司・加藤徹)	森林保全課 西部農林	県 単
森林・林業 (森林保護)	住んでよし訪れてよし豊かな農山村づくり	8 イノシシと戦う集落づくりと森林づくりに必要なシカ管理に関する研究<共> 8-1 農業集落における獣種別農林産物被害状況の把握 8-2 イノシシと戦う集落づくりに関する研究<共> 8-3 シカ管理一体型森林づくりに関する研究<共>	(25-27) 25-27 25-27 25-27	イノシシによる農林作物被害を減少させるため、また、森林施業に伴い増加が見込まれるシカを管理するため、各システムを構築する。 農林産物被害状況アンケートによる被害状況把握システムを構築する。 モデル集落を設置し、行動様式や現状対策の問題点を解明する。また、わな具や防護柵を開発する。 森林施業等により創出される餌場を利用した捕獲システムを構築する。	森林育成科 (大場孝裕・大橋正孝・片井祐介・石川圭介) 県環境衛生科学研究所 (有) 渡部製作所	農山村共生課 森林計画課 森林整備課 自然保護課	県 単 (新成長)

<新>：新規課題 <助>：国庫補助 <指>：指定試験 <委>：国庫委託 <交>：国庫交付金 <受>：受託 <共>：共同研究

6 試験研究関連事業

研究機関	事業名	内容	担当
本所	原々種、原種の育成及び原種の配布	水稻、麦の原々種、原種の育成及び原種の配布	作物科
	採種ほの審査・指導	採種ほの審査・指導	作物科、植物保護科、病虫害防除所
	イチゴのウイルス検定と無病苗の増殖・配布	イチゴ無病苗の原々苗の育成・増殖・配布	育種科
	肥料検査事業	肥料取締法に基づく肥料工場の立入検査と肥料の分析検査	土壌環境科
	植物遺伝資源の保存・管理	有用遺伝資源（種子）の保存・管理	本所
	出願品種選定栽培試験委託事業	登録出願品種（水稻、野菜、花き）の検定	本所
	農林大学学校教育業務	園芸課程学生の教育指導	本所
茶業研究センター	茶園施肥適正化推進事業	茶園の施肥量削減等の推進による環境にやさしい茶栽培体系の確立	生産環境科
	病虫害発生予察事業	基準ほ場での病虫害の発生調査、病虫害防除所に協力し、病虫害発生状況（予察情報）の提供	生産環境科
	農林大学学校教育業務	茶業課程学生の教育指導	茶業研究センター
果樹研究センター	遺伝資源の保存	果樹有用遺伝資源の保存	栽培育種科
	病虫害発生予察事業	病虫害の発生予測と適期防除の推進	生産環境科
	農林大学学校教育業務	果樹課程学生の教育指導	果樹研究センター
伊豆農業研究センター	薬用作物生産振興促進事業	薬用作物栽培普及のための栽培試験、成分分析等	栽培育種科 わさび科
	園芸作物優良種苗の育成・増殖・配布	カーネーション、マーガレットの無病苗の増殖・配布 キヌサヤエンドウの優良系種子の配布	栽培育種科
	優良種苗供給確保事業	柑橘品種（ヒュウガナツ等）のウイルスフリー苗供給	栽培育種科
	わさび生産振興対策事業	ワサビ優良品種の育成、ワサビ関連病虫害防除技術の開発	わさび科

研究機関	事業名	内容	担当
森林・林業研究センター	森の力再生事業効果調査	森の力再生事業における整備効果のモニタリング調査	森林育成科
	抵抗性クロマツ種苗の供給	抵抗性クロマツ苗の生産に必要な種子の生産・供与	森林育成科
	花粉飛散量調査	スギ・ヒノキの雄花の着生調査による花粉飛散量の予測	森林育成科
	松くい虫発生予察調査	松くい虫薬剤散布事業の適期を裏付けるためのマツノマダラカミキリの脱出消長調査	森林育成科
	林業薬剤効果調査	(一社)林業薬剤協会の委託を受けた松くい虫防除薬剤の有効性調査	森林育成科
	ニホンジカ生息実態調査	野生生物保護管理を推進するためのニホンジカの生息密度調査	森林育成科
	しずおか優良木材認証審査指導	しずおか優良木材認証工場の工場審査のアドバイス及び技術指導	木材林産科
	県営林利用間伐事業	県営林事業地における功程調査	木材林産科
	木材生産平準化促進事業	木材生産平準化促進事業地における功程調査	木材林産科
	農林大学学校教育業務	林業課程学生の教育指導	森林・林業研究センター